

平成15年度事業報告

事業概要

平成15年度は、国内研究助成(37件)、海外研究助成(7件)、国際学会および海外渡航研究者の援助、成果報告論文の刊行、学術講演会開催等の事業を行った。国内研究助成については、2年継続研究テーマを2件設定し、年度末に進捗ヒヤリングを実施した。

事業内容

1. 研究助成事業

(1)国内研究助成

平成14年度に募集・選考した37件の助成対象研究につき、第25回贈呈式を平成15年4月11日に開催し、研究助成金贈呈を行った。うち2件については内容が基礎的でありかつ成果の影響力を考慮して、継続研究が好ましいと判断し、継続研究テーマとした。

第26回研究助成事業については、平成15年11月末締切で全国から助成対象研究を募集し169件の応募を得た(平成15年度は160件)。応募の傾向として、大都市にある国立大学が半分近くを占めるという分布は変わらないが、大学以外の公的機関や高専からの応募が12件に達し、申請者の多様化が見られる。一昨年より応募増に対応するため助成件数を増やしたが、平成16年度も37件を選考し、総計5,169万円(平成15年度は5,138万円)の助成を決定した。また、うち2件を継続研究テーマとした。

(2)海外研究助成

助成対象は、昨年同様マレーシアの2大学(マラヤ大学、サインスマレーシア大学)、シンガポール2大学(シンガポール国立大学、ナンヤン工科大学)、中国4大学(南京東南大学、合肥工業大学、武漢理科大学、天津大学)の8大学とした。

応募総数19件(マレーシア1、シンガポール12、中国6)から7件(マレーシア1、シンガポール2、中国4)を選考し、総額58,960米ドルを贈呈した。(平成14年度は応募15件から7件に総額58,000米ドルを贈呈)

2. 国際学会等の助成事業

国際学会助成については、合計13件、160万円の助成を、また海外渡航研究者助成については1件に対し、10万円の助成を行った。

3. 成果普及事業

平成12年度助成研究の成果をまとめ、第21号成果報告書を刊行し、全国の主要大学やその図書館等に寄贈した。また、28件の成果報告の中から5名の先生方にお願ひし、学術講演会を平成16年1月23日東京で開催した。

4. 財政基盤・体制の整備

日本板硝子(株)からの寄附金4,500万円を含め、事業会社15社より計4,910万円の寄付金を頂いた。予算は4,500万円である。本年度の資金運用益は、為替レートが上期に円安基調で推移し、その結果収入は予算を上回った。さらに支出が押さえられたこともあって、正味財産は約2,590万円増加した。

5. その他

(1) 役員の異動

任期満了に伴い理事および監事の改選を行った。平成15年12月末、山路敬三氏が逝去された。また、平成16年3月31日付けで富永康氏が退任された。平成16年4月1日付けで評議員の曾我直弘氏と新たに水野増雄氏(住友ベークライト(株)取締役)が理事に選任された。坪井監事が平成16年3月31日付で退任され、代わりに一宮裕氏(日本板硝子(株)技術企画室担当部長)が監事に選任された。その他の理事および監事は留任となった。理事改選に伴い理事長および専務理事の互選を行い、理事長を庄野晋吉氏が、専務理事を小泉健氏が継続することとなった。本年度から役員は下記の通りとなった。

理事長 庄野 晋吉
専務理事 小泉 健
理事 末松 安晴
理事 曾我 直弘
理事 植之原 道行
理事 石渡 林太郎
理事 森 禮次郎
理事 中原 恒雄
理事 水野 増雄
理事 出原 洋三
監事 松岡 宏幸
監事 一宮 裕

曾我直弘氏が理事に就任されたのに伴い、平成16年4月1日付けで新たに作花済夫氏(京都大学名誉教授)が評議員に就任した。本年度より評議員は下記の通りとなった。

評議員 鈴木 弘茂
評議員 作花 済夫
評議員 田丸 謙二
評議員 辻内 順平

評議員 堀 幸夫
評議員 木戸 雄二
評議員 船木 正昭

以上